

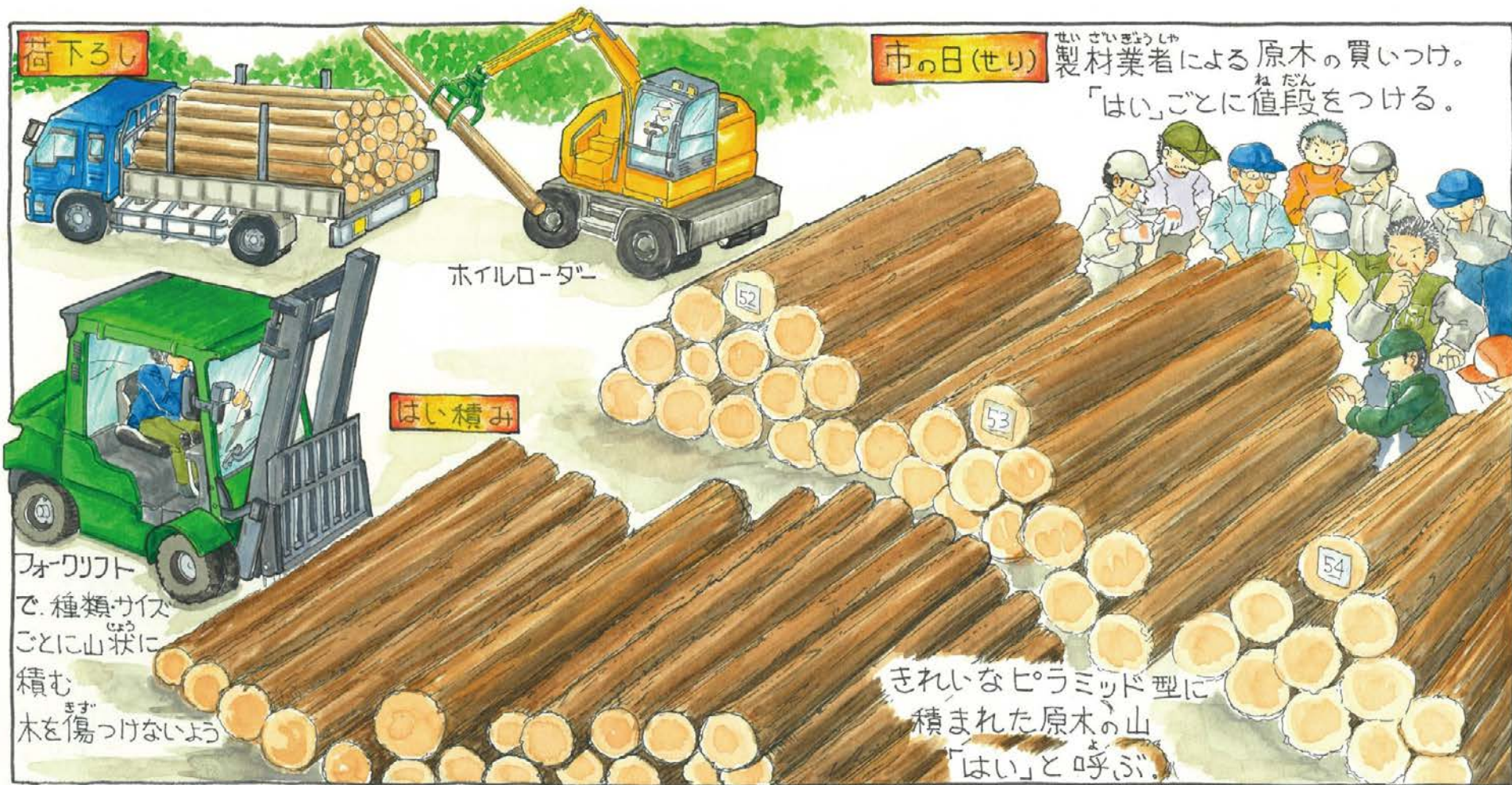


原木市場

原木市場は、山で伐採された原木丸太を売り買いする市場です。

伐採現場からトラックで市場に運ばれてきた原木を、ホイールローダーやフォークリフトを使って仕分けします。仕分けの際は原木の種類、長さや太さといった形状のほか、原木の品質や需要を見極めることが大切です。

山状に積み上げられた原木は「せり」にかけられ、「はい」ごとに売り買いされます。

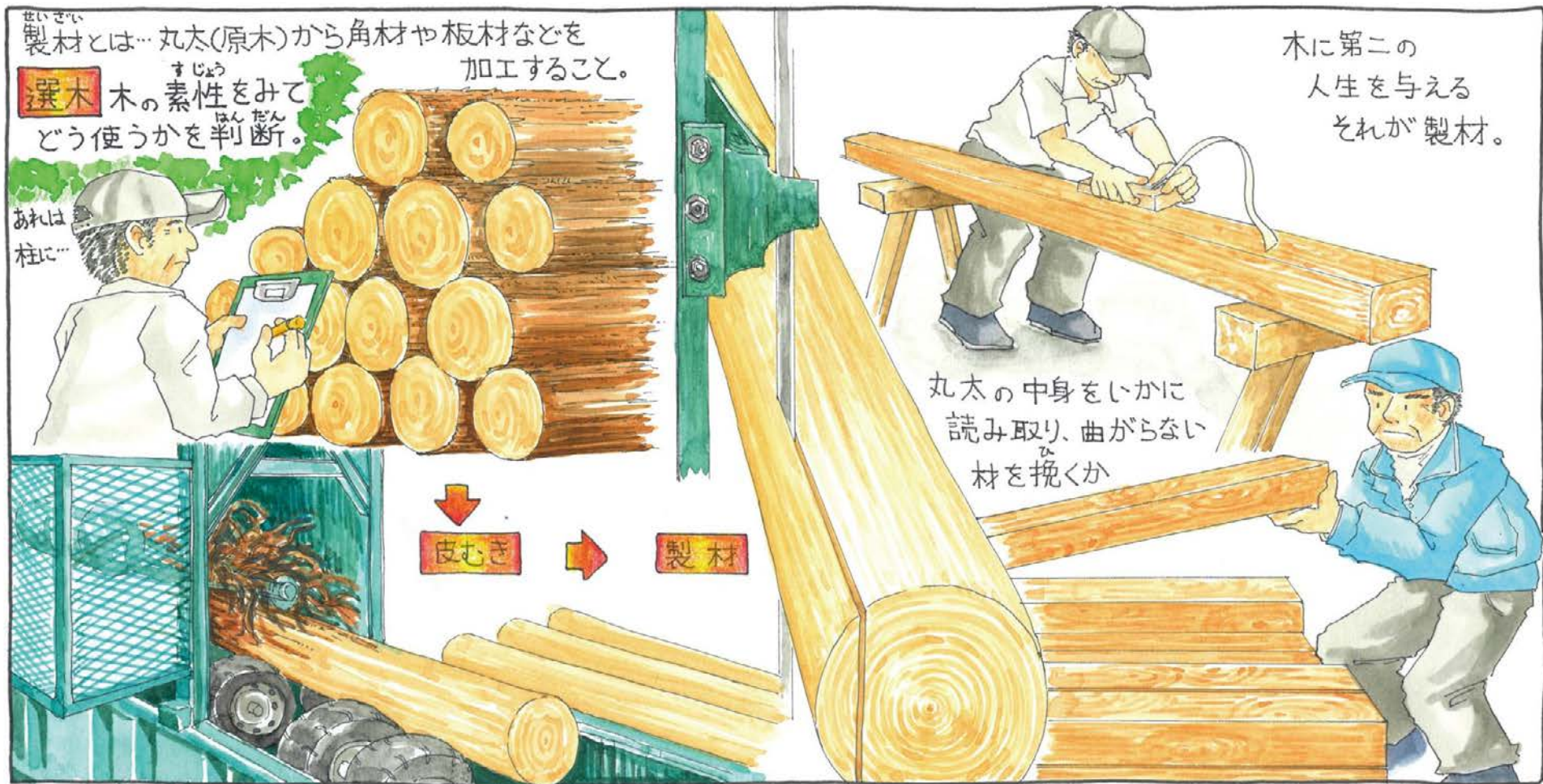


ひとと木

ひととき
— 人と木をつなぐ仕事 —

製材

製材とは、木の特性を見極めて、角材や板材などの材木に加工する作業です。木は生きものなので、同じ森で育っても一本一本違いがあります。その木の個性を活かし、どのように製材すれば無駄なく様々な材木をとることができるか、見極めることが重要です。何十年もかかって太く育った木は、製材され家の柱などになることで、さらに数十年生きることになります。





CLT

CLTは、木材の活用を中高層建築まで広げる新しい建築材料です。

何枚もの木の板を、木の繊維方向が「縦・横」と交互になるように重ねて張り付けることで、大きく、コンクリート並みに強く、かつ軽いパネルになります。

近年はCLTとRC（鉄筋コンクリート造）を組み合わせた中高層建築物が、全国各地に建設されています。

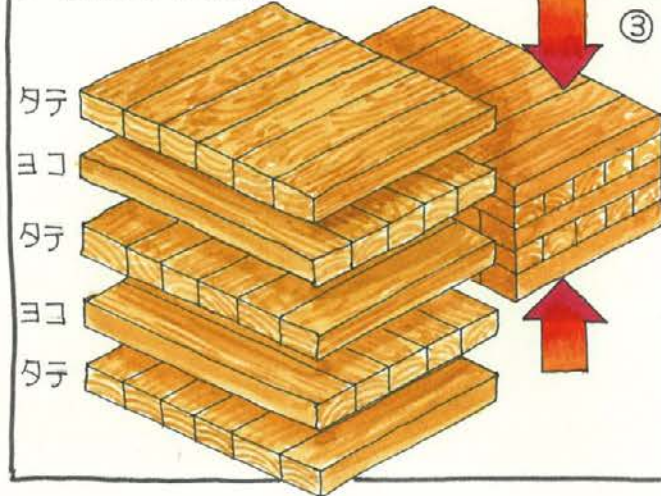
CLTとは…

Cross Laminated Timber
(直交集成板)の略称

① 木の繊維方向を…



② 直交して重ね

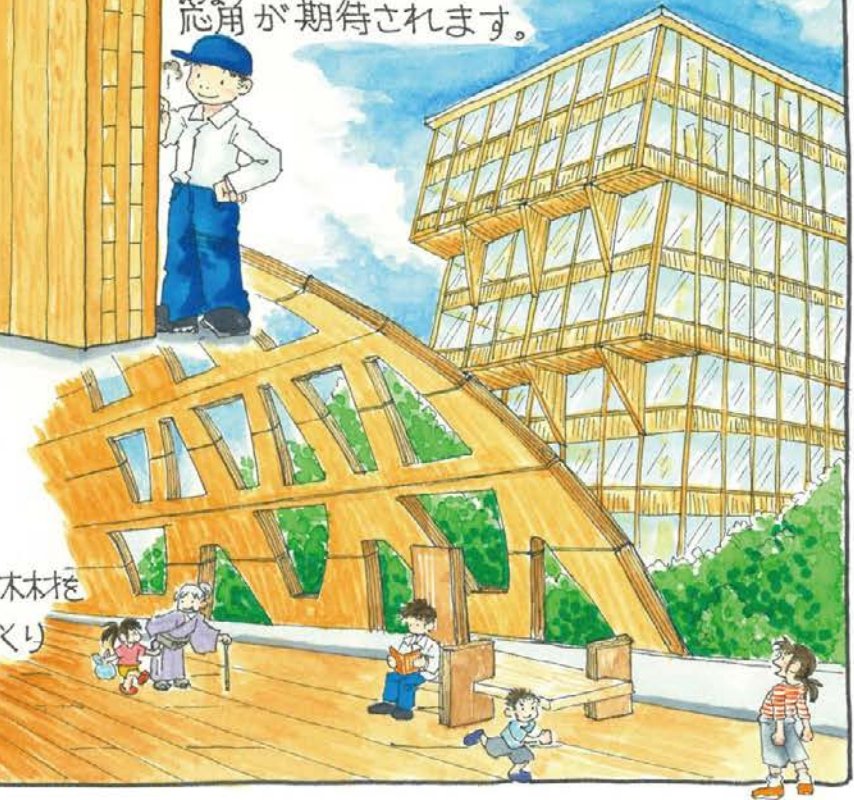


③ 接着して圧をかけます。

とくとくと〜ん



大きく変形に強い面材料。
今まで鉄筋コンクリートが主流だった中高層建築への応用が期待されます。

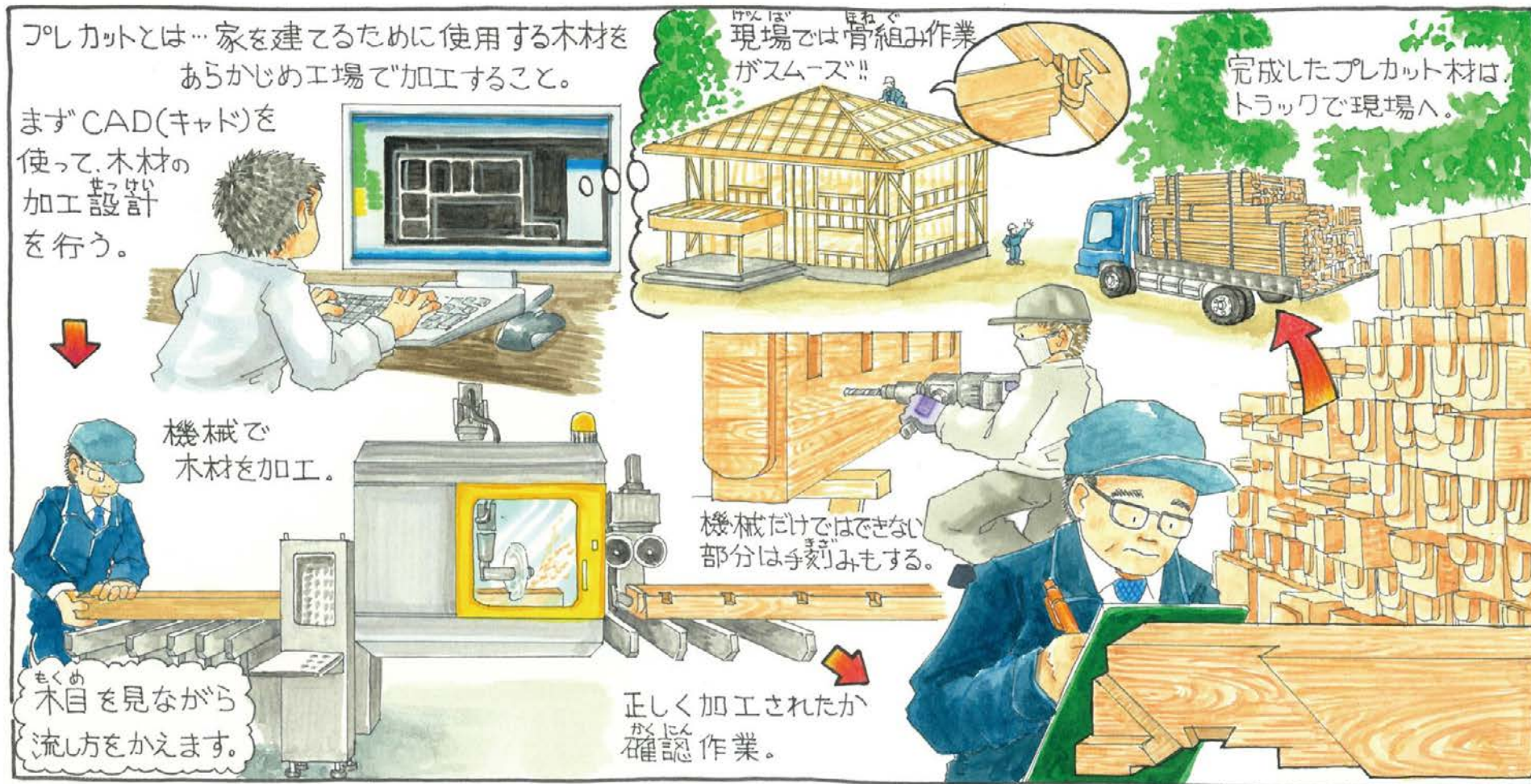


循環可能な資源である木材をフル活用した環境都市づくりを可能にするCLT。
夢が広がります!!



プレカット

プレカットは、家を建てるために使用する木材を、あらかじめ工場で加工する行程です。家を建てる木材は、しっかりと組み合わせるために、接合部に切り欠きを作ったり穴をあけたりします。昔は大工さんが建築現場で手作業で加工しましたが、今では事前に工場で機械を使って加工するプレカットの割合が増えました。職人が時間をかけて行う作業を効率よく機械化することで、職人不足にも対応できる技術です。





工務店

工務店は、新しく家を建てたり、リフォームや修繕、定期点検を行います。
 家を建てる人のイメージを聞き取ることで、住みたい夢の家を形にしていきます。
 最近は環境を大切にする観点から、地元の木材を利用した「地産地消」の家づくりをする
 工務店も増えています。



ひととき 木

— 人と木をつなぐ仕事 —

木地師

小林 一雄さん
(岐阜県恵那市)

木地師は、木をロクロで回しながら削って、木製品を作る職人です。

削る作業はとても繊細なので、木が割れないよう気を付けながらゆっくり作業を進めます。昔からの伝統的な木地師は、加工用の刃物を自分で作ったりもします。

作品には、木目が美しく加工しやすいケヤキやトチノキ材がよく使用されます。



木地師とは…

木をロクロで回しながら

はものけず
刃物で削って、
おぼんや器を
作る職人。

削りの道具を自分で
作る鍛冶屋でもある。

器の大きさや仕上げ方法に
あわせて、8種もの
ロクロ鉋を
用意。

夫婦共同作業の漆塗り。

5~20回
塗って、拭き取って、
乾かしてを
くり返す。

長い年月をかけ木が作り出した木目の美しさを、
最大限引き出して生活の中に取りこむ芸術家
なのです!

ひととき 木

— 人と木をつなぐ仕事 —

原木しいたけ栽培

水上 平八郎さん
(長野県駒ヶ根市)

原木栽培は、原木（ほだ木）に直接菌を植えてきのこを栽培する方法です。原木にはクヌギやコナラ、ミズナラ等がよく使われます。どの木も萌芽力が強いので、約20年で再び原木が収穫できます。ほだ木の組み方には地域で様々な種類があります。

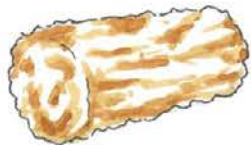


しいたけ 椎茸(きのこ)は木の子、だから山づくりから手がけます。

げんぼく 原木となるクヌギをドングリから育て、山に植え付ける



椎茸のたねともいえる「種駒」を



早春「ほだ木」に打ち込み作業。

ほぐがりよく クヌギの萌芽力を利用して、10~20年サイクルで原木を仕立てる。究極の循環産業



ほだ木を林やハウスに置いて、温度や湿度を調整。椎茸が出やすいように手助けする。

翌年から数年間、椎茸が発生する



ひととき 木

— 人と木をつなぐ仕事 —

炭焼き

原 正昭さん
(和歌山県みなべ町)

炭焼きは「木伐り3年、窯作り10年、炭焼き一生」といわれる職人技です。

窯の外で灰をかぶせて消火する「白炭」と、窯の口をふさぎ中で消火する「黒炭」に大きく分類されます。



紀州備長炭に代表される
高温で火持ちが良い「白炭」



火つきが良く火力が強い「黒炭」

かた ひととき ぼく ぎしゅうびんちやうたん
堅くて火持ち抜群の紀州備長炭。
原木となるウバメガシを。
「ぼうがこうしん」と太い幹のみを選んで切る
「たくばつ」で、15年サイクルで仕立てる。



どの幹を残すか
見極めが
重要!

炭窯に原木をすき間なく詰める。

曲がった木も
まっすくに
なおして詰める。



窯に火を入れると、
原木の乾燥(口焚き)
↓
蒸し焼き(炭化)
↓
ガスの燃焼(精錬)
と数日かかりきりに。

1,000℃で真っ赤に焼けた
炭を窯出しし灰をかぶせて
消火します。



元の木の1/3まで焼き締められた
備長炭。



打って澄んだ
金属音がひびく。

ひととき 木

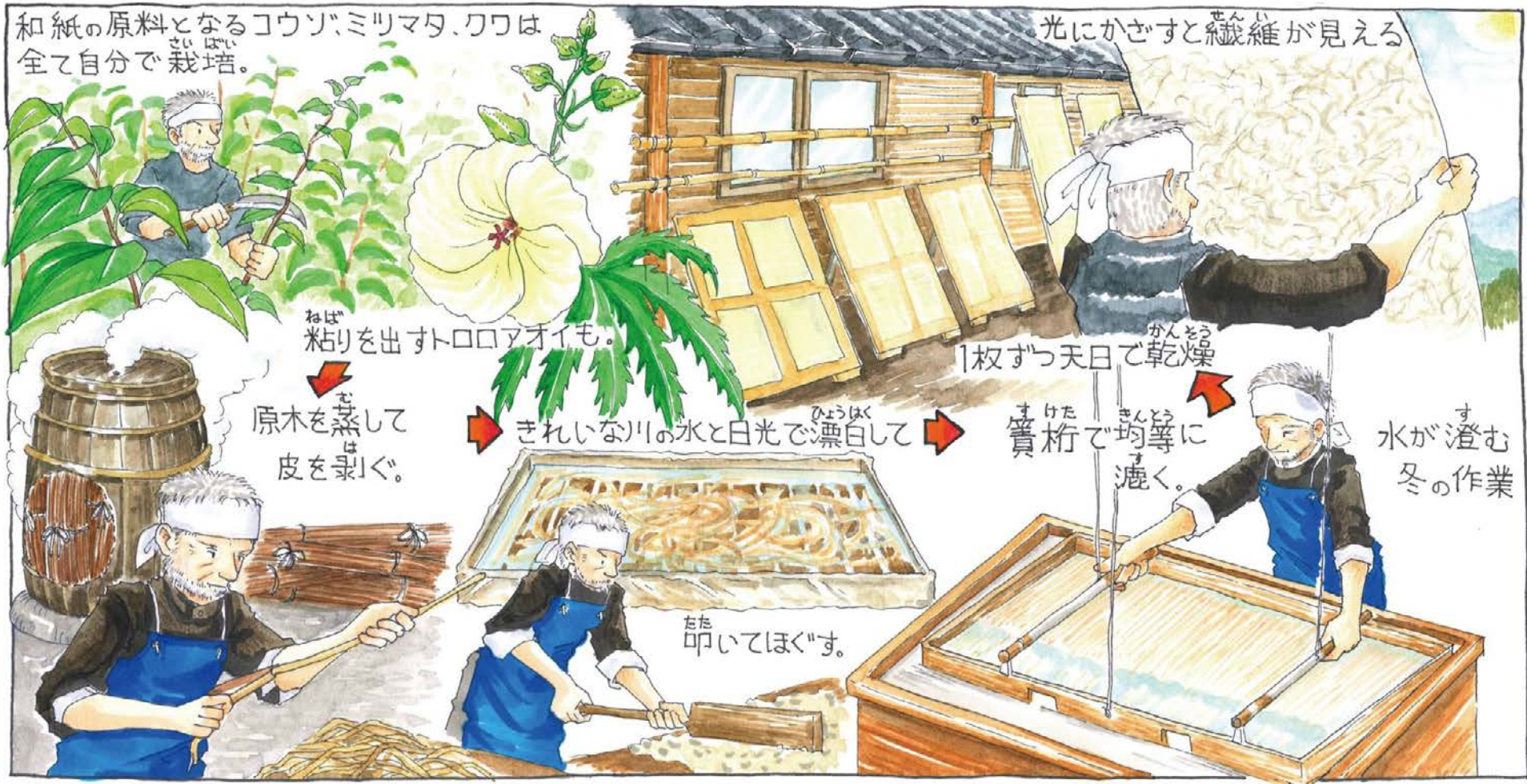
ひととき

— 人と木をつなぐ仕事 —

紙漉き

ロギール・アウテンボーグさん
ロギール
 (高知県橋原町)

紙漉きは、紙（特に「和紙」）の昔ながらの製法です。私たちが日常ノートや本で利用しているのは、木材パルプや古紙などを原料に作られた「洋紙」です。これに対し、コウゾやミツマタなどを原料に作られた紙は「和紙」と呼ばれ、カビや虫食いから守れば千年以上保つこともできます。近年はインテリアやアート等様々な場面で活用が広がっています。また、日本の紙幣にはミツマタが使用されています。



日本の森林

日本は国土面積3,780万ヘクタールのうち、約7割の2,505万ヘクタールを森林が占める、世界有数の森林国です(2017年3月末現在)。

この広大で豊かな森林は、貴重な野生動物が数多く生息するだけでなく、私たちの生活に必要な水や酸素の供給、土壌の保全を通しての災害防止等、人間の生活も守ってくれています。

そして、2050年カーボンニュートラルの実現のための重要な役割も担っています。

今でこそ豊かな日本の森林ですが、戦中戦後には物資の不足等の理由から過度に伐採され、荒廃した時期がありました。

その際、森を復活させるために先人たちが植林し育てた木々が、50~60年経った現在、収穫の時期を迎えています。人が育てた森林は、伐って・使って・植えて・育てるを繰り返すことで健全に維持されます。

木は人が手を加えれば50~100年で再び利用できるまで成長する循環可能な資源です。私たちが正しく木を使い、また育てることが豊かな森林とその恵みを次世代に受け渡すことにつながるのです。





発行 林野庁 林野図書資料館

林野図書資料館は国立国会図書館の支部にあたり、林野行政・施策部門における専門図書館として、森林・林業・木材産業関係の資料を広く収集、保存しております。

当漫画は日本人と木の文化をより多くの方々にご紹介し、日本の森林・林業の応援団になっていただきたいという思いを込めて作成いたしました。

他の漫画シリーズも林野庁のHPからご覧いただけます →



国民の森林・国有林

林野庁 林野図書資料館
〒100-8952
東京都千代田区霞が関1の2の1
電話:03-3502-8111(代表)

